

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900623		
法人名	医療法人 恵心会		
事業所名	グループホーム めぐみ		
所在地	旭川市錦町19丁目2166-149		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 8 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 11 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループ法人は医療法人と福祉法人があり、老人保健施設・デイケア・ケアハウス・病院・グループホームがあり、それぞれと連携している。特に家庭医療専門の「北星ファミリークリニック」との密な連携により、看取りまでを柔軟に対応出来、御利用者・ご家族が安心できるサポート体制となっている。又、職員育成では、人事考課・各種研修・各委員会を通し、職員一人ひとりのモチベーションや質を高めることに務めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900623-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年10月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は1ユニット9名で、建物は病院を再利用した鉄筋コンクリート造の2階建てである。本通り南面に位置し、桜色を基調に3色塗りに分けられ、壁面には大きな文字でホーム名が掲げられるなど、分かりやすい建物である。近くには衣・食・日用品等が揃っている道北で最大の商業施設がある。近隣には大きな公園や郵便局、銀行、消防署、JR駅や学校など利便性の良い環境である。スタッフも明るく、入居者の思いや意向等をしっかりと受け止めてケアに務めている。利用者、家族等の希望や意向を踏まえ、医師や看護師と連携しながら重度化や終末期の医療体制、看取介護を行っている。認知症の基礎講座や、身体拘束、及び感染症予防対策等の内部研修会を開催してスキルアップに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が書かれている小冊子を全員に配布している他、スタッフミーティング等で理念の再確認をしている	理念は玄関に掲示され、理念等が書かれた小冊子を全員に配布して、朝礼時に唱和し、ケアに繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが流行ってから地域との交流はほとんどないが、町内会長には運営推進会議への書面参加やグループホームの広報誌「めぐみ通信」の配布を行い交流を図っている	町内会に加入し、地域の行事などに参加していたが、コロナ禍のため交流はない。3ヶ月に1回めぐみ通信と、運営推進会議録を町内会長に配布し、意見交換をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に発信はしていないが、町内会長には興味のある方のご説明等いたしますと伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度、書面開催としており質疑応答用紙を返送してもらい意見交換している	運営推進会議は年6回書面で開催している。質疑用紙に希望、要望、意見を返送してもらいサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の指導監査課を始めとして福祉系部署には疑問等を相談している。又、運営推進会議に福祉部の方を招いている(今年度は書面開催)	市介護保険課には更新手続き等、生活保護課には生活保護手続き等の助言を得ている。指導審査課では運営上の問題でアドバイスを求めるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の手引きや東京都福祉保健財団発行の資料等を活用して適時話し合いをしている。又、玄関の施錠は必要最低限の夜間のみ施錠している	身体拘束委員会を年6回開催している。コロナ禍での内部研修を年3回開催し、職員全員が正しく理解している。玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての話し合いは、スタッフミーティング毎に話し合っている		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティングや各委員会等で理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に2時間ほど時間を設け、十分な説明と疑問質問に答えている。特に金銭面や解約の条件等不安の大きい場所は丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議での書面对応や、ご本人・ご家族様との話の際に、に出来るだけ意見を言いやすい雰囲気を作り関わっている	玄関には意見箱を設置している。利用者からは会話や支援の中で、家族からは電話や面会、手紙などから意見や要望を把握している。意見や要望は会議で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング時や人事考課面談時に一方的にならないよう話を聞く姿勢で関わっている	月1回のミーティングで、職員からの意見や提案を検討し、サービス向上に繋げている。人事考課は年2回実施し、提案、改善点等を協議して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課時に、自己診断してもらった資料を元に話し合いをしている。その際、必ず職員個々の良かった点と感謝の気持ちを言葉に出して伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他、職員が出来るだけ自分で目標設定出来る様助言している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターを中心としてネットワーク作りをしている		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談しニーズを把握、職員間で共有している他、入居後一ヶ月ほどはご本人との時間を多く持ち馴染みの関係作りに努めると共に、他ご利用者との架け橋になれるよう関わっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との入居前面談時にご家族とご本人のこれまでの道のりを聞き、共感しながら要望等を汲み取る。又、入居後しばらくはご本人の状況を電話等で報告し、相談しながら関係性を築いていく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等から状況を把握し、重要と思われる部分から対応を開始している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話を重視し、意思の疎通が難しいご利用者様とも非言語的関わりを持って対応している。その中で出来ることを見つけお手伝い等をしてもらっている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の現状を包み隠さず手紙・電話等で報告し、共に考え相談しながらご本人と関わってもらっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族は別として、現在は積極的な関わりは無い	コロナ禍のため関係継続は希薄になっているが、平時の来訪は時間を決めて、出来るだけ継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく孤立しないような食席配置を考え、時には職員が間に入り御利用者様同士が良好な関係になれる様に支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来るだけ負担にならない様配慮しながらいつでも気軽に立ち寄って貰えるように声かけしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向等を普段の何気ない係わりから察知できるように務めている			利用者や家族からの思いや希望、意向を聞き、会議で検討し、本人の要望に添えるように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴や趣味・嗜好を伺いどんな生活をしてきたのかを把握するように務めている			/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様のその日その時の心身状態を、会話や仕草等で把握し、職員間で共有するように務めている					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ご利用者様に担当職員をつけ、ミーティング・ケアカンファレンス等で話し合ったものをご家族に確認してもらい、意見を反映しながら進めている					
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・連絡帳に様子等を記録しミーティング等で実践を練り、担当職員主体で実践している			/		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族それぞれの心身の状況を踏まえ出来る範囲で柔軟な活動を行っている					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はあまり出来ていない					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が納得するかかりつけ医と密に連絡を取り合いながら、適切な医療を受けられるように支援している			母体法人が運営する24時間対応のクリニックと、希望する利用者・家族が入居時に契約を結び、かかりつけ医としている。医師は月2回往診し、看護師も月2回来訪して健康管理の支援をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、適切な情報を看護師等に伝え相談し、助言等を受けている			/		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	北星ファミリークリニックを通じて医療機関との連携を図っている他、入退院時には各医療機関のソーシャルワーカーとの連携を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の指針」を活用し、ご家族・主治医・施設で方向性を確認しながら支援している	入居時に利用者と家族に重度化した場合の指針を説明し同意を得ている。看護師や協力医とは、24時間連携できる体制が整っており、重度化の際は都度家族と話し合い、状態に合わせて看取り計画書を作成し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや各委員会研修等で技術や情報の共有を図れるように務めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練実施の他、近隣の老健から協力を得られるような体制を構築している	年2回防災訓練を、老健施設の協力を得て実施している。非常時に備え食材等の備蓄に備えている。	備蓄品リスト(食材、水、電灯等)を作成することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者個々の尊厳やプライバシーに配慮し、その時々に応じた声掛けや対応を行っている	職員は日々利用者それぞれに合わせて、プライバシーを損ねない声掛けや対応に心がけている。研修は年4回実施し、個人記録は保管場所を決めて管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を尊重し、自己決定の場を出来るだけ増やせるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	共同生活という中で、可能な範囲で御利用者一人ひとりの生活ペースに合わせる様、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分ごのみの服装が出来る様に関わっている。又、2ヶ月に1回訪問理美容サービスを利用し、整髪等ご利用者の希望に添えるようにしている		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おつゆをついでもらったり、食器を拭いてもらったりしている。又、箸、お椀、ご飯茶碗は個人の好みを考えて全て別なものにしている	業者から食材を購入し、職員が調理している。テーブルや食器拭きなど、個々の力量に応じて行っている。誕生食には本人の好物を提供している。外食は年2回実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を外注にて提供している他、刻み食やムース食にも対応している。又、水分摂取量表を用いて摂取量を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を、その方の状態に応じた方法で行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄出来る様支援している	排泄チェック表から一人一人のパターンを把握し、トイレに誘導して自立排泄を促している。リハビリパンツやバット等、状態に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活・水分摂取・運動等に気を配り、便秘の予防をすると共に、便秘時には協力医療機関と連携を図り、指示を仰いでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、一人ひとりの希望やタイミングに出来るだけ合わせて支援している	週2回(火・金)の入浴を基本としているが、本人の希望とタイミングで対応している。車イスの利用者にも容易に入浴が楽しめる。また、脱衣所からスロープで入浴ができるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣・音・明るさ等に配慮して安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも確認できる場所に保管している他、協力医療機関に相談しながら変化に対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月何らかの行事を行っている他、誕生会はその月の方まとめてではなく、誕生日その日に誕生会を開いている。又、気分転換を兼ねてウエスづくりで布を切ることを手伝ってもらっている		

グループホーム めぐみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出は控えてもらってた為、外出は出来ていないが、ご家族との面会は可能となっている	コロナ禍により外出は控えているが、家族との面会はロビーで行っている。事業所周辺や近くの公園等への散歩は、利用者の状況等に合わせながら外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、本人の希望に応じて少量の額を持てるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話することは無いものの、ご家族から電話が来て話したり、お手紙をいただく事はある		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾り物は季節にあったものを飾っている他、ホールには温度計を置き、可能な限り温度調整をしている	ホールは毎月季節に合った飾りが施され、室内温度も適正に管理されている。採光も良く、来訪者等を温かく迎え入れる工夫がされており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置しており、ご利用者同士や一人で座りたい方が時折使用している。又ホールにはテレビが設置してあり夜中以外は自由に視聴が可能		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、馴染みのものを置いたり、冷蔵庫やテレビ等居心地よく過ごせるよう配慮している	居室には本人が慣れ親しんだ愛着あるもの、テレビ、家具や写真などが飾られ、安心して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからなくなるご利用者様の部屋には名前を付け、歩行が不安定な御利用者様の居室に椅子等を配置して動線を確認し自立歩行出来る様にしている		